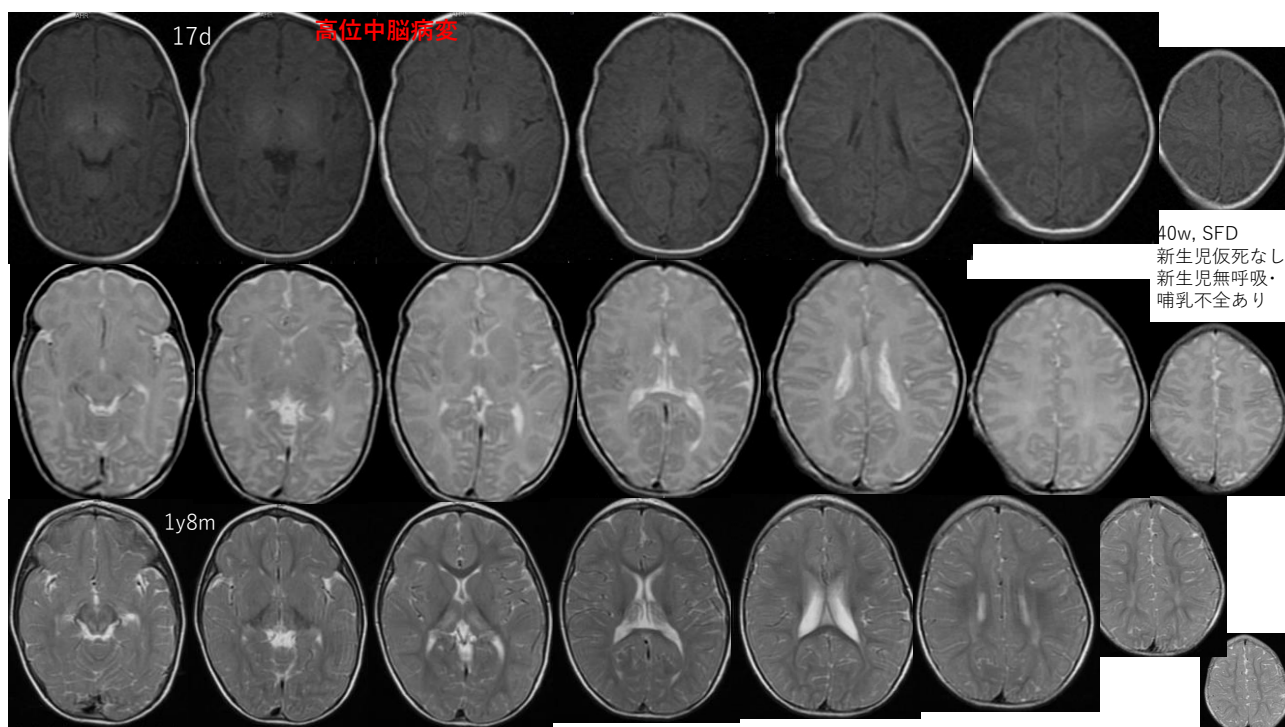


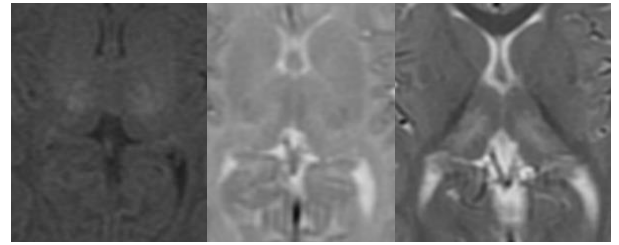
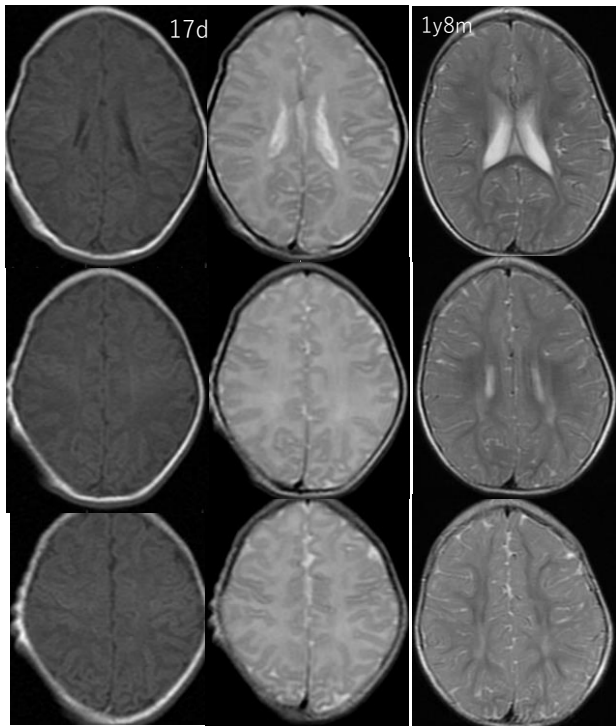
周生期低酸素性視床被殻大脳白質病変に中 脳病変が合併した運動障害 中脳無動型アテトーゼ

横地健治

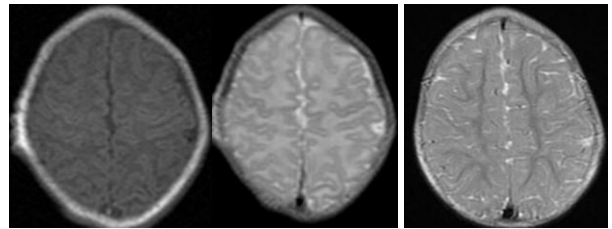
1



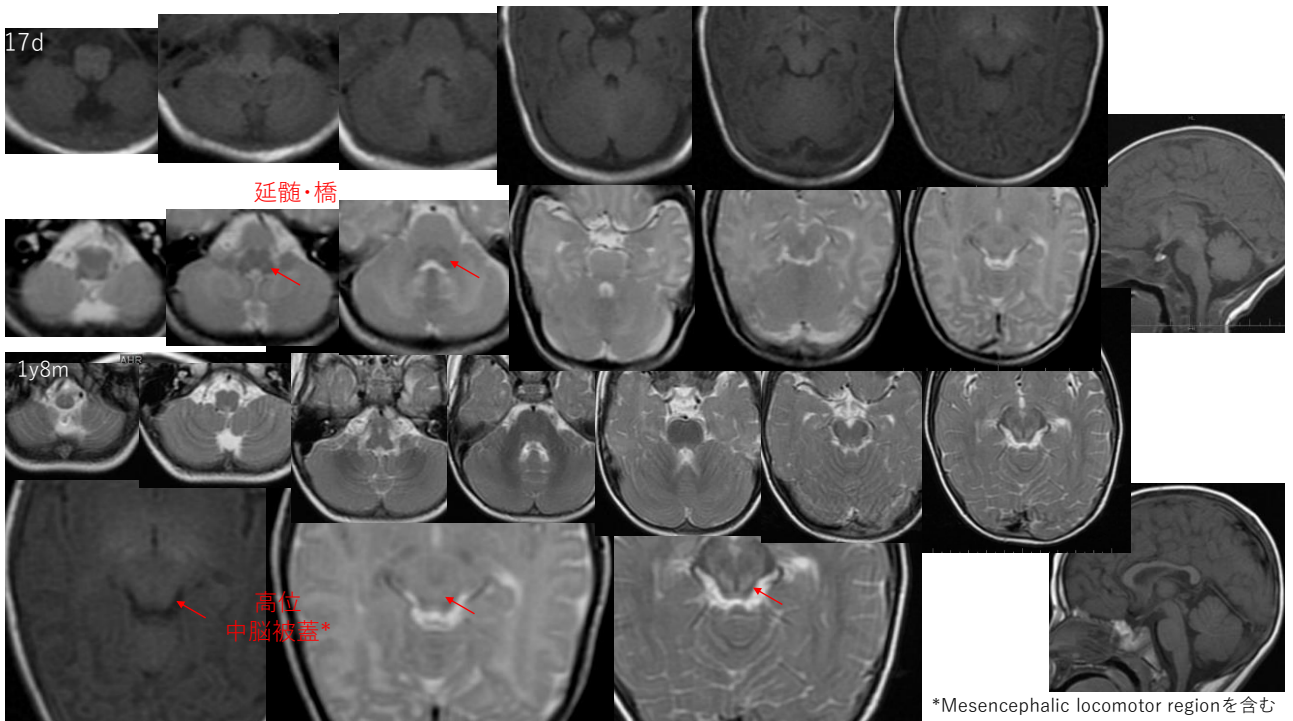
2



- VPL核とVL核中央部はいい
- VL核内側と外側・pulvinar・CM-MD
- Periventricular crossroads T2高信号が後方外周部にのみあり
- 深部白質はT2高信号となっている
- 中心溝深部白質はいい



3



4



右利き

- ・股屈曲・内転 非対称
- ・股屈曲から伸展への変換は速い
- ・下肢は非共同運動
- ・肩の退け

10m

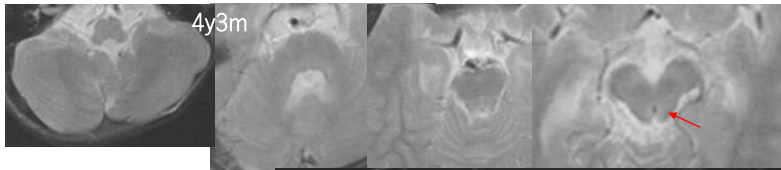


5



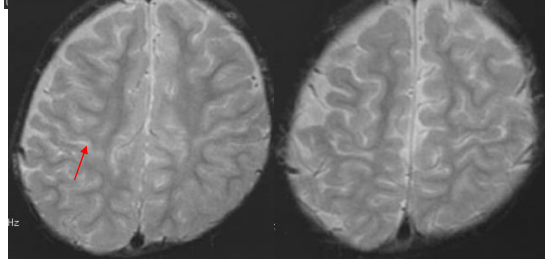
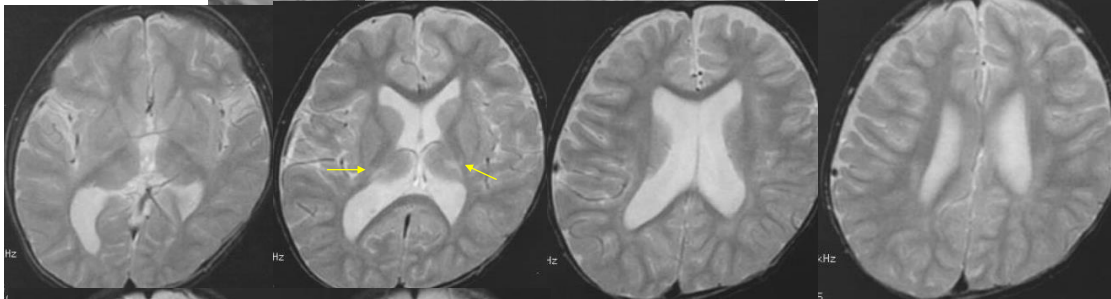
- ・肩の退け強い 肩水平外転筋の常時収縮強い 左>右
力が抜けたときの脱力感があり 伸展位が多い
股伸展荷重制限>股屈曲過活動
- ・股屈曲強い 股内転も強い 屈曲から伸展への変換は速い
力が抜けたときの脱力感があり 伸展位が多い
股伸展荷重制限>股屈曲過活動
- ・下肢分離運動は寡少だがあり
- ・上肢は肩水平内転しにくい 前腕回内はない
- ・中脳性運動発現障害 ・共収縮制御障害
- ・股屈曲過活動・股伸展荷重制限

6



右利き

- 36w HIE ・座位 3y4m
- 4歳頃より運動退行→横地分類A1



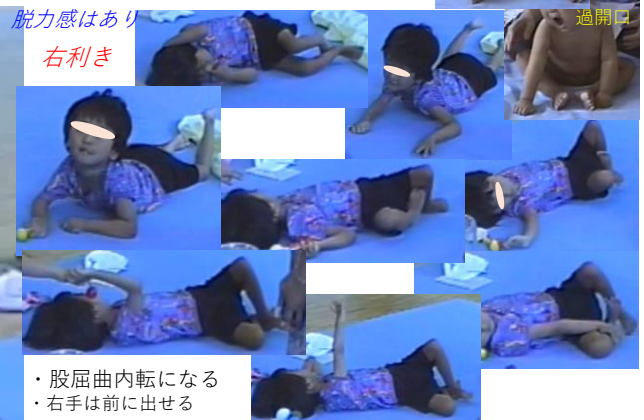
- ・中脳
- ・視床 VL・pulvinar・CM~DM
- ・被殻?
- ・側脳室周囲白質・深部白質
中心溝深部白質の萎縮はあるが
T2高信号はなし



7



- ・股屈曲・股外転 ・下肢屈曲から伸展への変換は速い
- ・下肢運動は非共同運動 ・上肢は前に出にくい左>右



脱力感はあり
右利き

- ・股屈曲内転になる
- ・右手は前に出せる

8

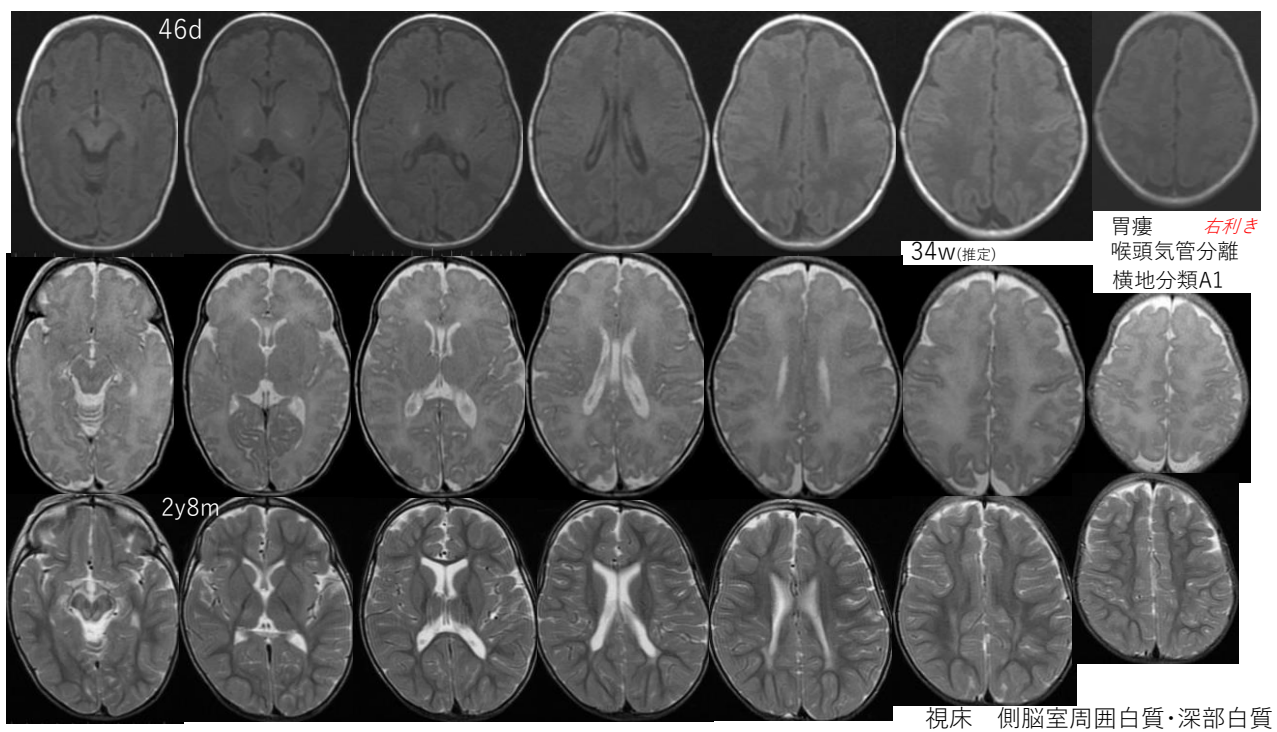


9

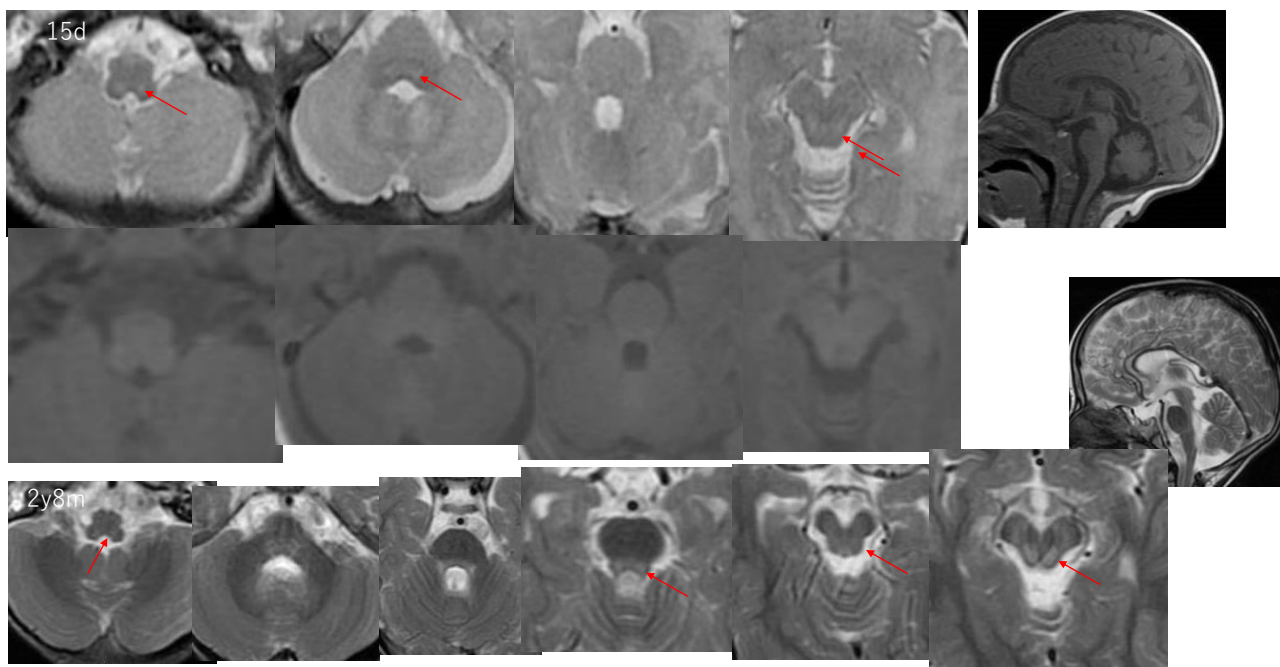


- ・股屈曲過活動
- ・股伸展荷重制限
- 速い下肢伸展
特異な脱力感あり
中脳性運動発現障害
- ・分離運動は寡少だがあり
- ・共収縮制御障害 弱い

10



11

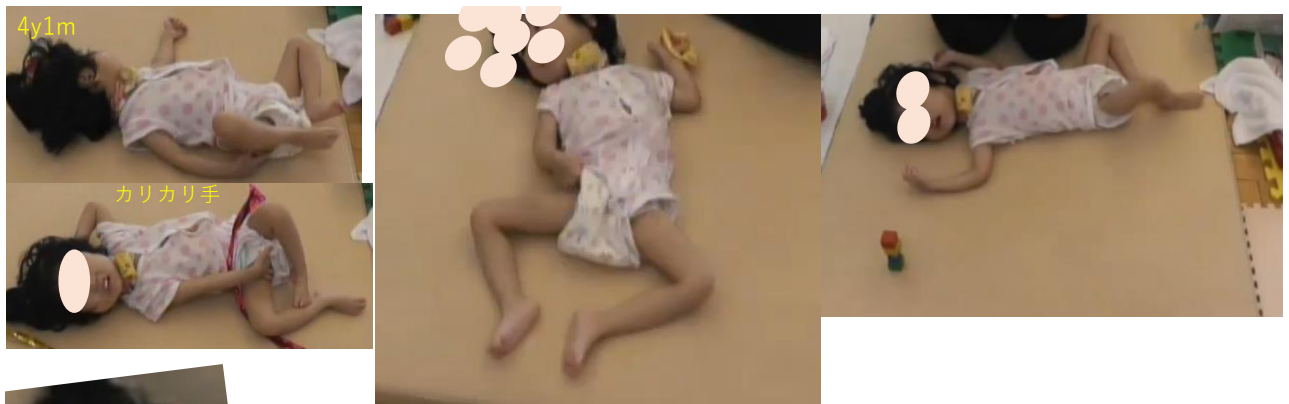


12



- ・股屈曲内転と股外転
- ・下肢の伸展は速い 交代性に動く 非共同運動
- ・上肢は前に出にくい 左>右
- ・脱力感あり

13



いわゆる
facial diplegia

表情筋の中脳性運動現障害

- ・股屈曲内転と股外転
- ・下肢速い屈伸運動 分離運動は寡少だがあり
- ・上肢は前に出にくい 左>右
- ・脱力感あり

- ・中脳性運動発現障害
- ・共収縮制御障害
- ・股屈曲過活動・股伸展荷重制限

14

周生期低酸素性視床被殻大脳白質病変に中脳病変が合併した運動障害 - 中脳無動型アテトーゼ -

- 股屈曲位の優勢あり *股内転または股外転優勢もあり
- 下肢伸展の動きは速く、最大伸展位も大きい
 - *過活動の股屈筋が脱力化している印象あり
 - *共収縮制御障害と対抗している印象あり
- 大振幅の交代性の下肢運動あり このとき非対称となる
- 関節可動域の極位で固まることあり このとき脱力感があることあり

中脳性運動発現障害